

研究課題「中学生を対象とする心理的レジリエンスを培う授業の効果検証」 へのご参加のお願い

1. この研究の概要

【研究課題】

中学生を対象とする心理的レジリエンスを培う授業の効果検証（審査番号：2019326NI）

【研究機関名および本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学大学院医学系研究科・精神医学分野

研究責任者 岡田 直大（東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構・特任准教授）

担当業務 データの収集・匿名化・管理・解析

【共同研究機関】

研究機関 信州大学学術研究院教育学系

研究責任者 高橋 史（信州大学学術研究院教育学系・准教授）

担当業務 データの収集・匿名化・解析

【研究期間】

令和2年3月19日～令和6年12月31日

【研究目的】

思春期は小児期と成人期の間の時期を指し、身体的な成長と共に心理的な発達も認められます。思春期には社会との接触が増え、人間関係が複雑化し始める時期であり、精神的成熟の過程にとって非常に重要な時期です。一方、精神疾患の発症が認められやすくなるのも、思春期の特徴の一つである。近年、困難やストレスに対する適応力（心理的レジリエンス）が注目されており、思春期児のレジリエンスの獲得により、健康な心理的発達につながる可能性が考えられます。従って、すべての思春期児が対象となりうる、レジリエンス向上の方法論を構築することが期待されています。しかしながら、科学的な根拠に基づくレジリエンスを培う方法は、未だにありません。

そこで東京大学大学院医学系研究科・精神医学分野では、中学生を対象とするレジリエンスを培う授業を開発しました。この授業は本研究とは独立して、中学校の授業もしくは行事として実施されます。さらに一部の中学校においては、本研究とは独立して、生徒の皆さんのレジリエンスを培うこと目的として、保護者の皆さん向けの講演も実施されます。本研究では、授業前後に生徒の皆さんを対象として簡単なアンケートを実施させていただき、アンケートの回答情報データの解析により、授業の効果を科学的に検証します。

【研究方法】

本研究に参加する中学校の、研究対象となる学年において、東京大学大学院医学系研究科・精神医学分野で開発したレジリエンスを培う授業が実施されます。この授業は本研究ではなく、学校の行事として位置付けられます。従いまして、本研究への参加・不参加に関わらず、原則として対象学年のすべての生徒の皆さんに対して実施されることになります。さらに一部の中学校においては、生徒の皆さんのレジリエンスを培うこと目的とする、保護者の皆さん向けの講演も実施されます。この講演も本研究ではなく、学校の行事

として位置付けられ、本研究への参加・不参加に関わらず、講演に参加する保護者の皆さんに対して実施されます。

この授業の効果を検証するために、生徒の皆さんを対象として、授業前後に記名アンケート調査を実施します。また学校側より、保健室やスクールカウンセラーの利用回数等、生徒の皆さんの個々のデータではなく、対象学年全体のデータを収集させていただく場合があります。

2. 研究参加の任意性と撤回の自由

この研究にご参加されるか否かは、生徒の皆さんの自由意志に委ねられています。もし研究にご協力いただけない場合でも、生徒の皆さんの不利益につながることは一切ありません。また、研究期間中に生徒や保護者の皆さんからお申し出があれば、本研究で記録したアンケート回答結果をいつでも破棄致します。ただし、撤回のお申し出があった時点（撤回日）で、解析、学会発表、論文投稿などがすでに行われている場合、これらを修正することは困難であるため、撤回日よりも前にさかのぼってデータを削除したり、解析、学会発表、論文投稿などの内容を修正したりは致しませんので、あらかじめご了承ください。

3. 個人情報の保護

この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

収集した情報は、解析する前に氏名・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で、研究室内の鍵付きの部屋で、パスワードロックのかかるパソコンで保管します。

4. 研究結果の公表・開示

本研究や、本研究のデータを解析して得られた成果が発表される場合、生徒の皆さんの氏名など個人情報が一切明らかにならない形で、学会、学術雑誌、データベース上等で公表されます。また学校全体の研究結果を、学校に提供する場合があります（生徒さんの個別のデータについては、学校に提供されません）。生徒さんの個別のデータについては、研究の性質上、保護者の方に開示しないことを前提としているため、個人的なお問い合わせをいただく場合にも、保護者の方にお伝えすることができません。

5. 研究参加者にもたらされる利益及び不利益

この研究が、生徒の皆さんに直ちに有益な情報をもたらす可能性は高いとはいえない。しかしこの研究の成果は、今後の中学生のレジリエンス向上に寄与することが期待されます。アンケートでは、研究に必要な質問をさせていただきます。また、この研究に参加することによる不利益は原則ありませんが、アンケートの回答の継続が難しい場合には、途中で回答を止めてかまいません。

6. 研究終了後の情報・データ等の取り扱い方針

生徒の皆さんから収集させていただいた情報は、東京大学大学院医学系研究科・精神医学分野や共同研究機関にて厳重に保管し、この研究のためにのみ使用します。研究終了後 5 年後までに、情報は適切な方法で

破棄させていただきます。

7. あなたの費用負担

今回の研究に必要な費用について、生徒や保護者の皆さん、研究に参加する中学校に負担を求める事はありません。

8. 研究から生じる知的財産権の帰属

本研究の結果として特許権等が生じる可能性がありますが、その権利は国、研究機関を含む共同研究機関及び研究従事者等に属し、研究対象者はこの特許権等を持ちません。また、その特許権等に基づき経済的利益が生じる可能性がありますが、これについての権利も持ちません。

9. その他

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学医学部附属病院長の許可を受けて実施するものです。なお、この研究に関する費用は、厚生労働省科学研究費補助金から支出されています。本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

この研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。

2020年9月16日

研究責任者：岡田 直大

連絡担当者：岡田 直大

東京大学大学院医学系研究科 精神医学分野

〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1

電話：03-5800-9263 / ファックス：03-5800-6894

メールアドレス：resilienceschoolresearch@gmail.com